（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（1）職務の理解
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」および「施設におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
指導の視点	研修課程全体（130 時間）の構成と各研修科目（10 科目）の相互の関連性の全体像をイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるよう基礎となる土台の形成を促す視聴覚教材等を工夫するなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解できるようにする内容。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義（実習）	演習
① 多様なサービスの理解	2	2	0	○介護保険サービス(居宅・施設)（実習） ○介護保険外サービス（実習）	・介護職員として、どのように働きたいのか、介護に抱く思いや、これから目指す介護職員についてグループで話し合い、これからの研修の方向性について認識を深める。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容（講義） ○居宅、施設の実際のサービス現場におけるそれぞれの仕事内容（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談等）（講義） ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携（講義）	・それぞれのサービスの長所・短所を考える。（介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的イメージについて）
（合計時間数）	6	6	0		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第１章職務の理解 中央法規発刊全２巻

※通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※時間配分の下限は、３０分単位とする。
※項目ごとに時間数を設定すること。
※実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（2）介護における尊厳の保持・自立支援
指導目標	・介護実践の展開において、尊厳の保持、QOL、自立・自律支援の考え方を取り入れ、その根拠を説明できる。 ・身体拘束・虐待など、対象者の尊厳、プライバシーを傷つける介護を予防する方法についてそのポイントを述べることができる。
指導の視点	・具体的な事例を複数示し、対象者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援介護予防という考え方に基づいたケアを行うこととの違い、自立・自律や意欲の促進という視点での気づきを促す。 ・対象者の現存機能を効果的に活用し、生活機能の維持・向上につながるケアに対する理解を深める。 ・尊厳という概念を具体的介護実践につなげられるよう具体的事例からの気づきを促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 人権と尊厳を支える介護	4	1.5	2.5	（1）人権と尊厳の保持（講義・通信） ○個人としての尊厳 ○アドボカシー ○エンパワメントの視点 ○「役割」の実感 ○尊厳のある暮らし ○利用者のプライバシーの保護 （2）ＩＣＦ（講義・通信） ○ＩＣＦの特徴の理解と活用 （3）ＱＯＬ（講義・通信） ○ＱＯＬの考え方 ○生活の質 （4）ノーマライゼーション（講義・通信） ○ノーマライゼーションの考え方 （５）虐待防止･身体拘束禁止（講義・通信） ○身体拘束禁止 ○高齢者・障がい者虐待防止法	・人間の尊厳を支える介護について、基礎的な理論を押さえた上で、事例を通してどのようなケアが具体的に尊厳を保持することにつながるのか検討する。
② 自立に向けた介護	3	0.5	2.5	（1）自立支援（講義・通信） ○自立･自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性･個別ケア ○重度化防止 （2）介護予防（講義・通信） ○介護予防の考え方	・事例を通して、どのような支援方法が自立支援や予防介護となるのか検討することで、自立支援に対する理解を深める。
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	（1）人権及び人権問題に関する理解（講義） （2）個人の権利を守る制度の概要（講義） ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援事業 ○生活保護	
（合計時間数）	9	4	5		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第２章介護における尊厳の保持・自立支援 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（3）介護の基本
指導目標	・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について理解している。介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療･看護との連携について理解している。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを理解している。 ・生活の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを理解している。 ・介護職に起こりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を理解している。
指導の視点	・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
①　介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	0.5	1	（1）介護環境の特徴（講義・通信） ○訪問介護と施設介護サービスとの違い ○地域包括ケアの方向性 （2）介護の専門性（講義・通信） ○重度化防止･遅延化の視点 ○利用者主体の支援姿勢 ○自立した生活を支えるための援助 ○根拠のある介護 ○チームケアの重要性 ○事業所内のチーム ○多職種からなるチーム （3）介護に関わる職種（講義・通信） ○異なる専門性を持つ多職種の理解 ○介護支援専門員 ○サービス提供責任者 ○看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームケアにおける役割分担	・介護に関わる職種を挙げ、他職種との連携が必要な理由を話し合い各専門職との連携について理解する。
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	職業倫理（講義・通信） ○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理 （介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ○介護職としての社会的責任	
③　介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	（1）介護における安全の確保（講義・通信） ○事故に結びつく要因を探り対応する技術 ○リスクとハザード （2）事故予防、安全対策（講義・通信） ○リスクマネジメント ○分析の手法と視点 ○事故に至った経緯の報告 （家族への報告、市町村への報告等） ○情報の共有 （3）感染対策（講義・通信） ○感染の原因と経路 （感染源の排除、感染経路の遮断） ○「感染」に対する正しい理解	・事故を未然に防ぐための方法や事故はなぜ起こるのか事故の要因を考え、危険予知危険予測について理解する。
④ 介護職の安全	1.5	1	0.5	（1）介護職の心身の健康管理（講義・通信） ○介護職の健康管理が介護の質に与える影響 ○ストレスマネジメント	・感染症対策を踏まえ、手袋・マスク・エプロン（ガウン）の着脱方法を演習する。

				○腰痛の予防に関する知識 （2）感染予防（講義・通信） ○感染管理・衛生管理 ○手洗いの基本○感染症対策	
（合計時間数）	6	3	3		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第３章介護の基本 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（4）介護・福祉サービスの理解と医療の連携
指導目標	・生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる ・介護保険制度や障がい者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障がい者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障がい者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件の元に介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる
指導の視点	・介護保険制度・障がい者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障がい者自立支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 介護保険制度	4.5	0.5	4	（1）介護保険制度創設の背景及び目的、動向（講義・通信） ○ケアマネジメント ○予防重視型システムへの転換 ○地域包括支援センターの設置 ○地域包括ケアシステムの推進 （2）介護保険制度のしくみの基礎的理解（講義・通信） ○保険制度としての基本的仕組み ○介護給付と種類 ○予防給付 ○要介護認定の手順 （3）制度を支える財源、組織･団体の機能と役割（講義・通信） ○財政負担、指定介護サービス事業者	
② 医療との連携とリハビリテーション	2.5	0.5	2	○医療行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割･連携 ○リハビリテーション	・医行為を行ってはいけない理由を考え、医行為と医行為でないものについて理解する。
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	2	0.5	1.5	（1）障がい者福祉制度の概念（講義・通信） ○障がいの概念 ○ＩＣＦ（国際生活機能分類） （2）障がい者自立支援制度のしくみの基礎的理解（講義・通信） ○介護給付・訓練等給付の申請から給決定まで （3）個人の人権を守る制度の概要（講義・通信） ○個人情報保護法 ○成年後見制度 ○日常生活自立支援制度	
（合計時間数）	9	1.5	7.5		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第４章介護・福祉サービスの理解と医療との連携 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（5）介護におけるコミュニケーション技術
指導目標	・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。・言語、視覚、聴覚障がい者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。・記録の重要性と機能に気づき、主要なポイントを列挙できる。
指導の視点	・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	（1）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割（講義・通信） ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ○傾聴○共感の応答 （2）コミュニケーションの技法（講義・通信） ○言語的コミュニケーションの特徴 ○非言語的コミュニケーションの特徴 （3）利用者･家族とのコミュニケーションの実際（講義・通信） ○利用者の思いを把握する ○意欲低下の要因を考える ○利用者の感情に共感する ○家族の心理的理解 ○家族へのいたわりと励まし ○信頼関係の形成 ○自分の価値観で家族の意向を判断し、非難することがないようにする ○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い （4）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際（講義・通信） ○様々な状況に応じたコミュニケーション技術	・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの伝達演習を行い、特徴を理解し、介護におけるコミュニケーション技術の必要性について理解を深める･受容･共感･傾聴などのロールプレイを行うことで利用者の思いを知るコミュニケーションについて理解する。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	（1）記録における情報の共有化（講義・通信） ○記録の意義 ○記録の種類 ○記録の書き方 ○記録の保護と管理 （2）報告・連絡・相談（講義・通信） ○報告・連絡・相談の意義と目的 ○報告・連絡・相談の具体的方法と留意点 （3）コミュニケーションをうながす環境（講義・通信） ○会議の目的と意義 ○会議の種類と運用	
（合計時間数）	6	3	3		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第５章介護におけるコミュニケーションの技術 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（6）老化の理解
指導目標	・加齢、老化に伴う生理的な変化や心身の変化･特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。･高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴、治療･生活上の留意点および高齢者の疾病による症状や訴えについて理解できる。
指導の視点	・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	（1）老年期の定義（講義・通信） ○なぜ老年期を定義する必要があるのか （2）老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴（講義・通信） ○防御反応（反射）の変化 ○喪失体験 （3）老化に伴う心身の機能の変化と日常生活（講義・通信） への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響 ○咀嚼機能の低下 ○筋・骨・関節の変化 ○体温維持機能の変化 ○精神的機能の変化と日常生活への影響	
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	（1）高齢者の症状・疾患の特徴（講義・通信） ○骨折 ○筋力の低下と動き･姿勢の変化 ○関節痛 （2）高齢者の疾病と日常生活の留意点（講義・通信） （3）高齢者に多い病気と日常生活の留意点（講義・通信） ○循環器障がい（脳梗塞、脳出血、 虚血性心疾患）の危険因子と対策 ○老年期うつ病症状 ○誤嚥性肺炎 ○症状の小さな変化に気づく視点 ○高齢者と感染症	・日々の健康状態の変化にどのようにすれば気づけるか、またどのような観察視点が必要か検討するとともに、日常生活上の留意点を理解する。
（合計時間数）	6	3	3		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第６章老化の理解 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（7）認知症の理解
指導目標	・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障がいの違いについて列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動･心理症状（ＢＰＳＤ）等の基本特性、およびそれに影響する要因を列挙できる ・認知症の心理･行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、及び介護の原則について列挙できる。 ・若年性認知症の特徴について列挙できる。・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語･非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方を概説できる。 ・家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。
指導の視点	・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 認知症を取り巻く状況	1.5	0.5	1	（1）認知症ケアの理念（講義・通信） ○その人を中心としたケア（パーソン・センタード・ケア） （2）認知症ケアの視点（講義・通信） ○認知症ケアの視点（できることに着目する）	
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理（講義・通信） ○認知症の定義○物忘れとの違い ○認知症の診断 ○せん妄の症状○健康管理 （脱水･便秘･低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ○認知症の治療と予防○薬物療法	
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	（1）認知症の人の生活障がい、心理･行動の特徴（講義・通信） ○認知症の中核症状 ○認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ） ○不適切なケア ○生活環境による改善 （2）認知症の人への対応（講義・通信） ○本人の気持ちを推察する ○プライドを傷つけない ○相手の世界にあわせる ○失敗しないような状況を作る ○すべての援助行為がコミュニケーションであると考える ○身体を通したコミュニケーション ○相手の様子･表情･視線･姿勢などから気持ちを洞察する ○認知症の進行に合わせたケア	・事例を通し、認知症の方の立場に立って、状況を考えるグループワークを行うことにより、認知症の方の思いに対する理解を深める。 ・中核症状から引き起こされるBPSD に対して理解を深める。 ・事例を通し、BPSD への対応方法についてグループワークを行い理解する。
④ 家族への支援	0.5	0.5	0	家族への支援（講義） ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減（レスパイトケア） ○ピアサポーター	
（合計時間数）	6	3	3		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第７章認知症の理解 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（8）障がいの理解	
指導目標	・障がいの概念とＩＣＦについて概説でき、各障がいの内容･特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。	
指導の視点	・介護において障がいの概念とＩＣＦを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点に対する理解を促す	・介護において障がいの概念とＩＣＦを理解しておくことの必要性の理解を促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 障がいの基礎的理解	0.5	0.5	0	（1）障がいの概念とＩＣＦ（講義） ○ＩＣＦの分類と医学的分類 ○ＩＣＦの考え方 （2）障がい者福祉の基本理念（講義） ○ノーマライゼーションの概念	
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等への基礎的知識	1.5	0.5	1	（1）身体障がい（講義・通信） ○視覚障がい○聴覚、平衡障がい ○音声、言語、咀嚼障がい ○肢体不自由○内部障がい （2）知的障がい（講義・通信） ○知的障がい （3）精神障がい（講義・通信） （高次脳機能障がい、発達障がい含む） ○統合失調症･気分障がい・依存症などの精神疾患 ○高次脳機能障がい ○広汎性発達障がい･学習障がい･注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい （4）発達障がい（講義・通信） ○発達障がいの理解 ○発達障がいの特性・支援のポイント （5）難病（講義・通信） ○難病とは ○難病の種類	・事例に基づいたグループワークを行い、障がいのある方に対して関わる際の視点を理解する。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	（1）家族の理解･障がいの受容支援（講義・通信） （2）介護負担の軽減（講義・通信）	・障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方についてグループワークを行う。
（合計時間数）	3	1.5	1.5		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第８章障がいの理解 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術
指導目標	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅･地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 ・主だった状態像の高齢者の生活の様子、要介護度等に応じた在宅･施設等それぞれの場面における高齢者の生活についてイメージできる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
指導の視点	・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解できるようにし、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとって生活の質の維持・向上を図るための支援とは何か考えられるように指導する。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 介護の基本的な考え方	3	3	0	(1) 理論にもとづく介護（講義） (2) 法的根拠に基づく介護（講義）	・ICF によるアセスメント、利用者理解、利用者主体介護実践における原則(尊厳の保持、自立支援安全安楽）を事例から学ぶ。
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3	0	(1) 学習と記憶の基礎知識（講義） (2) 感情と意欲の基礎知識（講義） (3) 自己概念と生きがい（講義） (4) 老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因（講義）	
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	3	2	(1) 生命の維持・恒常のしくみ（講義・通信） (2) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識（講義・通信） (3) 骨･関節･筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用（講義・通信） (4) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識（講義・通信） (5) 自律神経と内部器官に関する基礎知識（講義・通信）	・ボディメカニクスを活用した立ち上がりや起き上がりの介護を実施及び体験することで、人のからだの仕組みを活用し介護を行う必要性を理解する。
④ 生活と家事	3	3	0	(1) 生活と家事の理解（講義） (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援（講義） ○生活歴○自立支援○予防的な対応 ○主体性･能動性を引き出す ○多様な生活習慣○価値観	・家事援助の機能、役割について、自立支援の家事援助についてグループワークを行い、イメージを深める。
⑤ 快適な居住環整備と介護	3	3	0	(1) 快適な居住環境に関する基礎知識（講義） (2) 高齢者･障がい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用（講義） ○家庭内に多い事故○バリアフリー ○住宅改修○福祉用具貸与	
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	(1) 整容に関する基礎知識（講義） (2) 整容の支援技術（講義） ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ○身支度 ○整容行動 ○洗面の意義･効果	・介護の実施にあたっての観察・アセスメントのポイントを理解し実践する。･介護実践の原則である尊厳の保持、自立支援、安全安楽を常に意識した実技演習を展開する。(身支度の介護衣服の着脱）
⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に	8	6	2	(1) 移動･移乗に関する基礎知識（講義・通信）	・介護の実施にあたっての観察

向けた介護				（2）移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法（講義・通信） （3）利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援（講義・通信） （4）移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法（講義・通信） （5）移動と社会参加の留意点と支援（講義・通信） ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○利用者の自然な動きの活用 ○残存能力の活用･自立支援 ○重心･重力の働きの理解 ○ボディメカニクスの基本原理 ○移乗介助の具体的な方法○移動介助 ○褥瘡予防	・アセスメントのポイントを理解し実践する。･介護実践の原則である尊厳の保持、自立支援、安全安楽を常に意識した実技演習を展開する。(車いすの操作、移動介助、杖歩行、トランスファー体位の特徴、体位変換
⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	6	2	（1）食事に関する基礎知識（講義・通信） （2）食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法（講義・通信） （3）楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法（講義・通信） （4）食事と社会参加の留意点と支援（講義・通信） ○食事摂取の意味 ○食事のケアに対する介護者の意識 ○低栄養の弊害 ○脱水の弊害 ○食事と姿勢 ○咀嚼･嚥下のメカニズム ○空腹感 ○満腹感 ○好み ○食事の環境整備 ○食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ○口腔ケアの定義 ○誤嚥性肺炎の予防	・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 (食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援。)
⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	6	2	（1）入浴・清潔保持に関連した基礎知識（講義・通信） （2）入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法（講義・通信） （3）楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法（講義・通信） ○羞恥心や遠慮への配慮 ○体調の確認 ○全身清拭 ○目･鼻腔･耳･爪の清潔方法 ○陰部洗浄（臥床状態での方法） ○足浴・手浴・洗髪	・介護の実施にあたっての観察・アセスメントのポイントを理解し実践する・介護実践の原則である尊厳の保持、自立支援、安全安楽を常に意識した実技演習を展開する。(環境の整備、入浴の介護、シャワー浴、清潔保持の介護、清拭、手浴・足浴)
⑩ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	6	2	（1）排泄に関する基礎知識（講義・通信） （2）排泄環境の整備と関連する用具の活用方法（講義・通信） （3）爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法（講義・通信） ○排泄とは ○身体面（生理面）での意味 ○心理面での意味 ○社会的な意味 ○プライド･羞恥心 ○プライバシーの確保 ○おむつは最後の手段・おむつ使用の弊害 ○排泄障がいが日常生活に及ぼす影響 ○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担･尊厳や生きる意欲との関連性 ○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ○便秘の予防	・介護の実施にあたっての観察・アセスメントのポイントを理解し実践する。 ・介護実践の原則である尊厳の保持、自立支援、安全安楽を常に意識した実技演習を展開する。(環境の整備、排泄の介護、ポータブルトイレ、便器・尿器、おむつの使用、感染予防)
⑪ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	（1）睡眠に関する基礎知識（講義） （2）睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法（講義） （3）快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法（講義） ○安眠のための介護の工夫 ○環境の整備 ○安楽な姿勢・褥瘡予防	・介護の実施にあたっての観察・アセスメントのポイントを理解し実践する。･介護実践の原則である尊厳の保持、自立支援、安全安楽を常に意識した実技演習を展開する。(環境の整備、安楽な姿勢の保持)
⑫ 死にゆく人に関連したここ	1.5	1.5	0	（1）終末期に関する基礎知識（講義）	・終末期介護の実施にあたっ

ろとからだのしくみと終末期介護				（2）生から死への過程（講義） （3）「死」に向き合うこころの理解（講義） （4）苦痛の少ない死への支援（講義） ○終末期ケアとは ○高齢者の死に至る過程 ○臨終が近づいたときの兆候と介護 ○介護従事者の基本的態度 ○多職種間の情報共有の必要性	ての観察 ・アセスメントのポイントを理解し実践する。 ・医療と介護の連携の実際について学ぶ。 ・終末期においても尊厳の保持、自立支援、安全安楽など介護の原則が活かせる場面を考え演習を行う。
⑬ 介護過程の基礎的理解	6.5	4.5	2	（1）介護過程の目的･意義･展開（講義・通信） （2）介護過程とチームアプローチ（講義・通信）	･介護過程を展開することで、よりよい介護につながる理由を検討し、介護過程の必要性について理解を深める。
⑭ 総合生活支援技術演習	6	6	0	○事例の提示（講義） →こころとからだの力が発揮できない要因の分析 →適切な支援技術の検討→支援技術演習 →支援技術の課題	・一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点を習得する。 ・事例をグループワークで検討し、個別援助計画を立案し、計画に基づく援助について理解を深める。 ・個々の利用者に応じた適切な支援技術は何かを検討し、援助方法についてロールプレイを行い、理解を深める。
（合計時間数）	75	63	12		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第２巻「自律に向けた介護の実際」 第１章介護に関する基礎的理解 第２章自立に向けた介護の展開 第３章生活支援技術演習 中央法規発刊全２巻

（別添２－２）

令和６年６月26日現在

シラバス

指定番号 287

商号又は名称：株式会社レオ

科目番号・科目名	（10）振り返り
指導目標	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 ・研修と通じて学んだこと、今後も継続して学ぶべきことを演習を通して受講者が気づき、利用者の生活を支援する介護ができる
指導の視点	・介護に関わる者として基本的態度について理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを受講者自身に言語化させ、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人一人が今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持つことができるよう促す。

項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	内容	
				講義	演習
① 振り返り	3	3	0	○研修を通して学んだこと、今後継続して現場で学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点についてグループワークを通じて振り返る（講義） ○介護職としてのさまざまな働き方を現場の介護職から聞くことで、自らの働く姿をイメージし、キャリアプランにつなげる。（講義）	
② 就業への備えと研修修了後における実例	1	1	0	○継続的に学ぶべきこと（講義） ○研修終了後における継続的な研修について具体的にイメージできるような実例の紹介（Off―JT、OJT）（講義）	・研修終了後どのようなスキルアップを目指したいか考え、具体的なスキルアップの例等、講師の経験談を通し、意欲向上を図る。
（合計時間数）	4	4	0		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト第１巻「介護のしごとの基礎」 第２巻「自立に向けた介護の実際」 中央法規発刊全２巻